



2014年10月16日

株式会社テイツー (JASDAQ 7610)

2015年2月期 第2四半期 決算説明会資料



2015年2月期 第2四半期 決算説明

2015年2月期 第2四半期 業績の概要

● 連結損益計算書

(単位:百万円)	2014年 2月期 2Q累計期間	2015年 2月期 2Q累計期間	増 減
売上高	14,288	13,595	△693
売上総利益	4,175	3,872	△302
営業利益	144	△254	△398
経常利益	144	△245	△390
四半期純利益	41	△186	△228

1株当たり四半期純利益	81銭/株	△3円69銭/株
-------------	-------	----------

※2013年9月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算定しております。

● 比較損益計算書(個別)

(単位:百万円)	2014年 2月期 2Q累計期間	2015年 2月期 2Q累計期間	増 減
売上高	14,286	13,586	△700
売上総利益	4,176	3,873	△302
営業利益	196	△200	△396
経常利益	162	△195	△357
四半期純利益	73	△137	△211

売 上 高

前年同期から減収。

古本は期初からの事業再構築により、前年並みに回復。また、専門店出店等によりトレカは新品・中古ともに増収。一方、期初に想定していた以上に、新品・中古ゲームが低調に推移。

営業利益/経常利益

前年同期から減益。

減収要因に加え、消費低迷を想定した低価格政策により、利益率が低下し、売上総利益が減少。出店・売場再構築やシステムへの投資、及び消費回復を見込んだ夏商戦の販促費増加等により販管費が増加。

四 半 期 純 利 益

前年同期から減益。

経常利益の減少により、四半期純利益は減少。

予実差異の状況①

■連結業績

(単位:百万円)	2015/2期 2Q累計 予想	2015/2期 2Q累計 実績	差異額
売上高	14,550	13,595	△954
営業利益	△120	△254	△134
経常利益	△125	△245	△120
四半期純利益	△125	△186	△61

■個別業績

(単位:百万円)	2015/2期 2Q累計 予想	2015/2期 2Q累計 実績	差異額
売上高	14,500	13,586	△913
経常利益	△65	△195	△130
四半期純利益	△65	△137	△72

予実差異の状況②

連結売上高の状況・・・計画比で減少

● リアル店舗

下記の要因により、4月の業績予想に対して未達。

(ご参考) ※2Q累計期間

リアル店舗 売上高(前年同期比)	95.2%
------------------	-------

(消費税増税や天候不順の影響)

2014年4月の消費税増税前の駆け込み需要が見込まれた3月は、新品ゲームにビッグタイトルがなく、また対応準備の遅れにより低調に推移。4～6月の顧客の消費動向が期初予想以上に低迷し、期待された7月以降も回復せず。

夏キャンペーン「アンビノチカラ」や設立25周年記念販促を展開し、2Qにおいて前年同期比での大幅な増収を見込んでいたものの、前述の消費低迷に加え、台風等の天候不順の影響により、特に西日本の店舗で来店客数が大きく想定を下回る。

(スマートフォンの拡大)

スマートフォンの拡大等に伴う市場の変化が、想定以上に急速に進んだことにより、当社の主要商材である家庭用ゲーム・CD・DVDが低調に推移。

● EC部門

下降トレンドにある家庭用ゲーム・CD・DVD等既存商材への依存から脱却できていない。 (ご参考) ※2Q累計期間
取扱商材の拡大対応の遅れにより、4月の業績予想に対して未達。

EC部門 売上高(前年同期比)	93.7%
-----------------	-------

(※)ご参考

四半期別 連結売上高

	2014/2期	2015/2期	増減
第1四半期会計期間	7,564百万円	6,962百万円	△601百万円
第2四半期会計期間	6,724百万円	6,632百万円	△92百万円

予実差異の状況③

売上総利益の状況・・・計画比で減少

- 売上高の計画未達が影響。中でも、これまで利益の源泉としてきた、中古ゲーム・中古CD/DVD(当社内では古本に対して中古メディア商材と総称)の低迷が大きく影響し、売上総利益は計画比で減少。

(※)ご参考

中古品売上合計:前年同期比 $\Delta 5.1\%$

内 中古ゲーム:前年同期比 $\Delta 8.2\%$ …… 新品ゲームの落ち込みに連動した低迷

内 古 本:前年同期比 $\Delta 1.1\%$ …… 当期に入ってからからの施策により、長期低落傾向から下げ止まり

営業利益/経常利益の状況・・・計画比で減少

● 営業利益/経常利益

販管費についてはほぼ計画通り(前年同期比では微増)。

【人件費】

- ・ 前期から進めているPA比率の向上による総人件費の抑制策は推進。(PAキャリア制度を策定し、店舗における社員比率を抑えるローコストオペレーション化推進)

【販売費】

- ・ 夏休み商戦のために販売促進・広告宣伝費を集中的に投入(増額)。ほぼ折込チラシ一辺倒の施策から、新たなポイント/会員システムの利用等、メリハリのある予算編成・執行を実施。

販管費については計画通りに進捗したものの、売上総利益の減少により、営業利益・経常利益は期初予想に対して未達。

2015年2月期 第2四半期 連結貸借対照表の状況

(単位:百万円)	2014/2末		2014/8末		増減額
	金額	構成比	金額	構成比	
流動資産	7,395	66.3%	6,243	61.4%	△1,151
現預金	2,725	24.4%	1,872	18.4%	△852
売掛金	360	3.2%	290	2.9%	△69
商品	3,815	34.2%	3,455	34.0%	△359
貯蔵品	24	0.2%	23	0.2%	0
その他	469	4.2%	600	5.9%	131
固定資産	3,763	33.7%	3,930	38.6%	166
有形固定資産	1,111	10.0%	1,141	11.2%	30
建物及び構築物(純額)	624	5.6%	621	6.1%	△2
その他(純額)	487	4.4%	520	5.1%	32
無形固定資産	118	1.1%	252	2.5%	133
投資その他の資産	2,533	22.7%	2,536	24.9%	2
差入保証金	1,252	11.2%	1,268	12.5%	15
投資有価証券、子会社/ 関係会社株式	216	1.9%	233	2.3%	16
その他	1,064	9.5%	1,034	10.2%	△29
総資産	11,159	100.0%	10,173	100.0%	△985

(単位:百万円)	2014/2末		2014/8末		増減額
	金額	構成比	金額	構成比	
負債合計	6,097	54.6%	5,338	52.5%	△759
流動負債	3,626	32.5%	3,535	34.8%	△90
買掛金	1,094	9.8%	887	8.7%	△206
短期借入金	0	0.0%	0	0.0%	0
1年内長期借入金	1,741	15.6%	1,793	17.6%	51
未払法人税等	0	0.0%	0	0.0%	0
その他	790	7.1%	854	8.4%	64
固定負債	2,471	22.2%	1,802	17.7%	△668
長期借入金	1,526	13.7%	902	8.9%	△623
役員退職慰労引当金	0	0.0%	0	0.0%	0
その他	945	8.5%	899	8.9%	△45
純資産	5,061	45.4%	4,835	47.5%	△226
株主資本	5,057	45.3%	4,830	47.5%	△227
その他包括利益累計額	1	0.0%	2	0.0%	0
新株予約権	2	0.0%	2	0.0%	0
負債純資産合計	11,159	100.0%	10,173	100.0%	△985

主な資産の増減

- ・流動資産: 現預金の減少及び商品在庫の圧縮
- ・無形固定資産: ポイントシステム導入等によるソフトウェア資産の増加

主な負債増減

- ・流動負債: 買掛金が減少
- ・固定負債: 長期借入金返済による減少

主な純資産の増減

- ・株主資本: 四半期純損失1億8千6百万円の計上、配当金支払い4千万円による利益剰余金の減少

2015年2月期 第2四半期 キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)	2014/2期 2Q累計 (13/3~13/8)	2015/2期 2Q累計 (14/3~14/8)
営業キャッシュ・フロー	228	144
投資キャッシュ・フロー	△91	△335
財務キャッシュ・フロー	△100	△661
現金及び現金同等物の増減額	35	△852
現金及び現金同等物	2,626	1,739

営業CFの内訳

(単位:百万円)	2014/2期 2Q累計 (13/3~13/8)	2015/2期 2Q累計 (14/3~14/8)
税引前当期純利益	126	△250
減価償却費	257	160
たな卸資産増減額	385	360
仕入債務増減額	△263	△205
法人税等支払額	△238	△18
その他増減額合計	△39	95
営業キャッシュ・フロー	228	144

○営業キャッシュフロー

- 税引前四半期純損失を計上し、仕入債務が減少したものの、たな卸資産の減少額及び減価償却費が寄与し、プラス。

○投資キャッシュフロー

- 店舗改装及び新規出店等有形固定資産取得、システム投資等無形固定資産取得により、マイナス。

○財務キャッシュフロー

- 借入金の返済、配当金の支払等により、マイナス。

当期の取り組みと 2015年2月期 業績予想

当期に取り組むテーマ

収益力・成長力の基盤強化と、コスト改革を組み合わせた強固な土台作り。
構築した強固な土台作りの上で、各種施策を実施。

古本事業の再構築
(蓄積したノウハウの再活用)

メディアコンプレックス再構築
(新商材の導入・育成)

地域商圏の活性化
(出店やECによる商圏創出)

改革・
強化策

売場改革

本部改革

ローコスト経営



次の成長に
向けた
揺るぎない土台

当社の経営の根幹をなす基盤

収益力の基盤

成長力の基盤

成長力の基盤

古本事業

メディアコンプレックス

商圏拡大

収益力の**基盤** 古本事業の再構築

時代の変化に合わせ、お客様の求める商品/サービスを配した売場展開

基盤の再構築による売上拡大:まず**前々期並み**売上高への回復(前期比ではプラス)

買取



仕入の源泉である買取を強化
「**売らなれば、まずは古本市場**」
という顧客リレーションを構築し
売れ筋商品の仕入を増加

仕分



売れる商品の選別を確実に
実施することにより、**売上拡大**
だけでなく、**原価低減**も同時に
図る。

棚入れ



商品の棚入れ・補充実施を
徹底することにより、
欠品による機会ロスを低減し、
売上高を拡大。

古本に経営資源を
再配分することで、
売上拡大を図ると
同時に顧客との
リレーション再構築

改革効果による収益性の向上:前々期の約90%の店舗人件費で、オペレーションを構築

- 前期より推進してきたPA比率の向上により人件費を抑制
- 前々期並みの人員数を配しても、人件費は約90%に削減

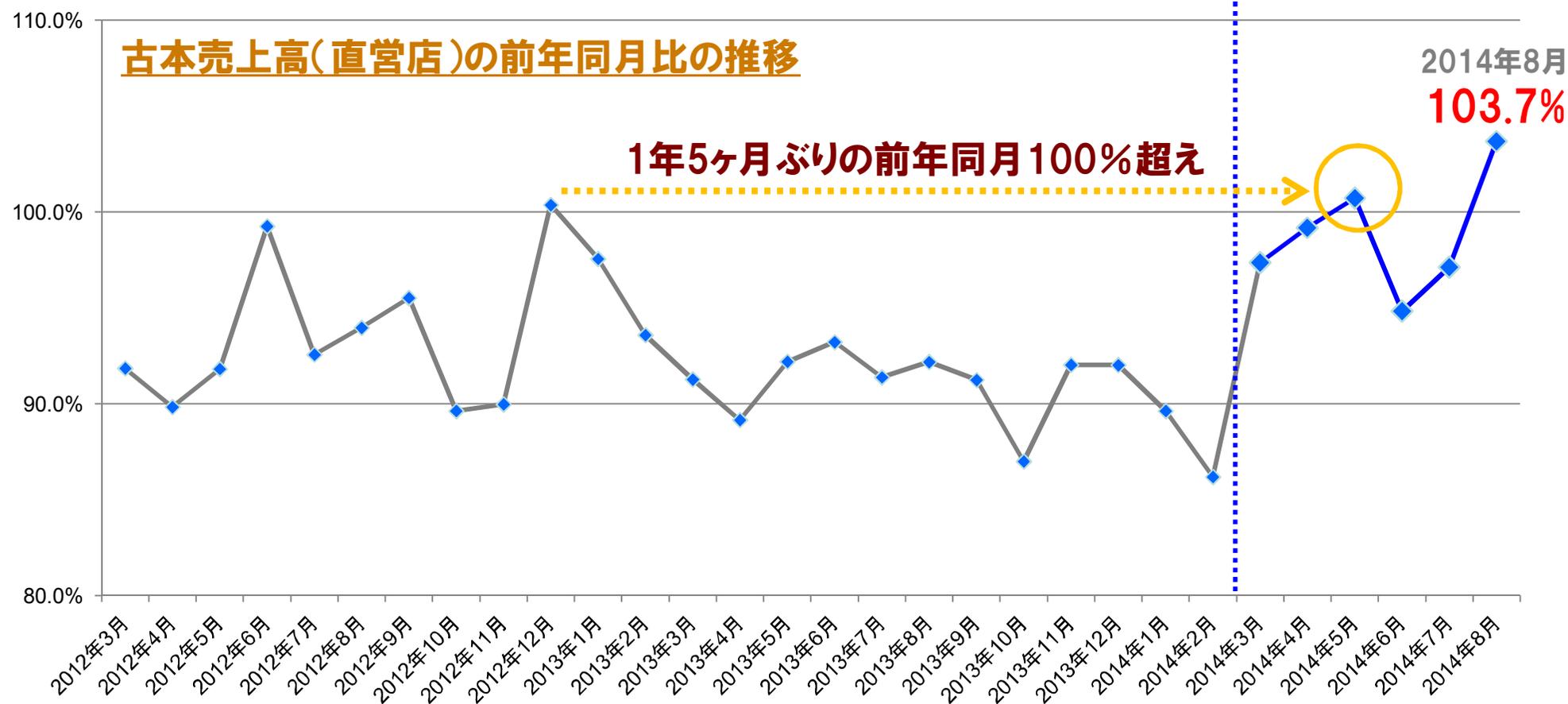
古本の事業利益率を
大きく改善する

※PA比率:パート・アルバイトの人員比率

収益力の基盤 古本事業の再構築

再構築に向けた施策を開始したことにより、古本事業の売上高が着実に変化

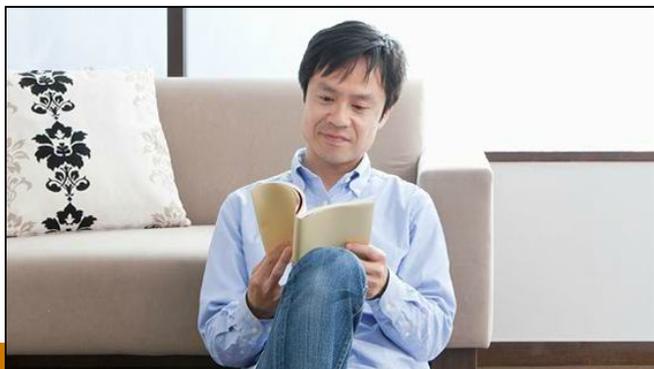
長期的に低下傾向にあった古本売上高が、施策の実施により下げ止まり。当期8月には前年同月比で103.7%を記録。



成長力の基盤

古本を核としつつ、時代の変化に合わせて、お客様の求める商品/サービスを配した売場展開

本（古本・新刊）



CD・DVD（中古・新品）



ゲーム（中古・新品）



お客様の求める「楽しさ」「メディア」に合わせて、取扱商材を常に拡大

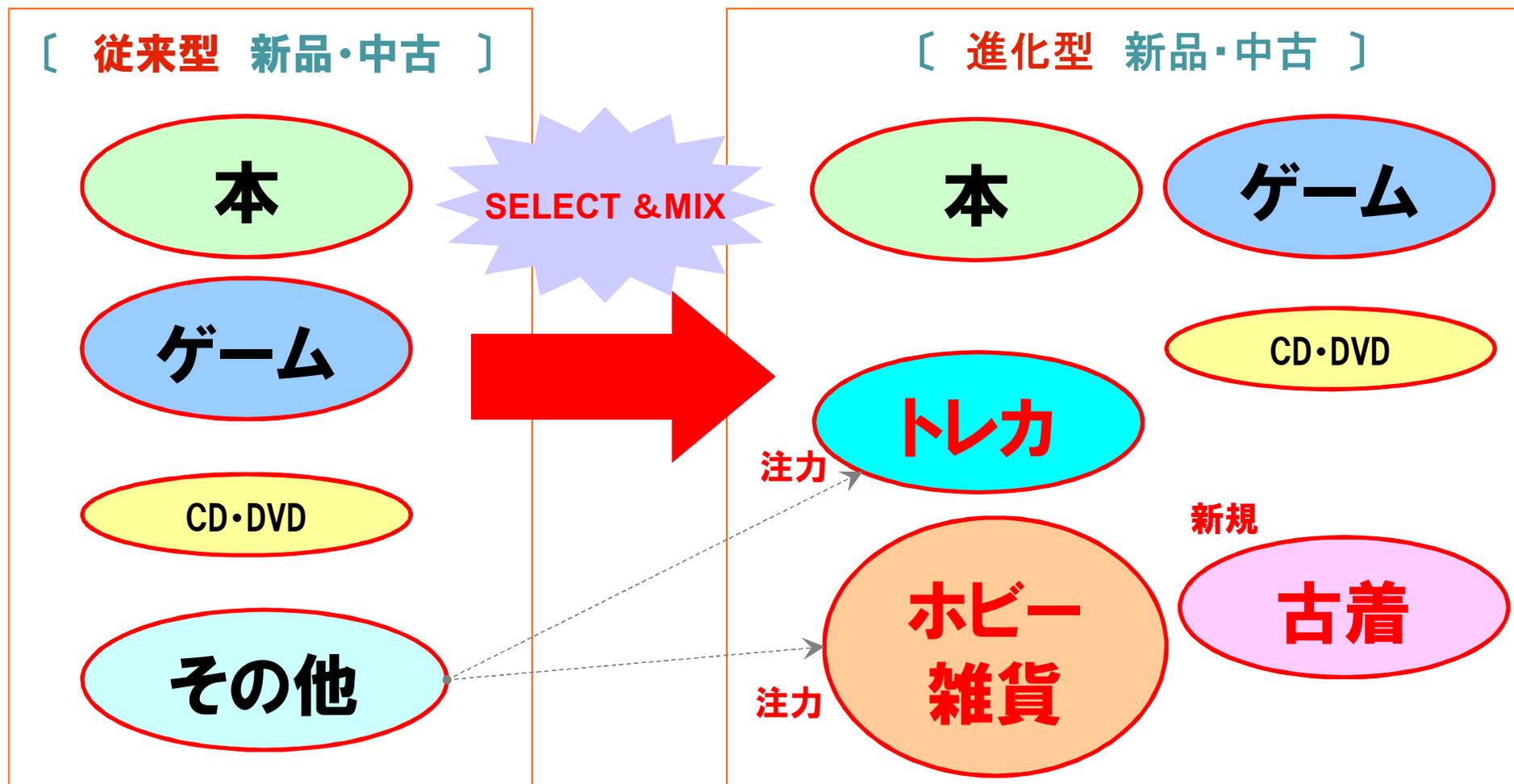
お客様が次に求める商材・サービスを
いち早く感知し、導入・販売

お客様の要望をいち早く、安く、深く、ご提供する。
新品と中古品の両方を扱うことへのこだわりは
ユニークなノウハウの一つ。

成長力の基盤 ～メディアコンプレックスの再構築

集客と購買意欲を高める専門特化した商材による売り場創り

新品と中古を同時に取り扱う商材の多様化と、地域の顧客志向にあった商品構成の店創り



成長力の**基盤** 小さなNo.1から(トレカ業界No.1へ) ~メディアコンプレックスの再構築

○ トレーディングカードの拡大 (トレカパーク開設)

トレーディングカードを、本・ゲームに続く第3の柱とすべく、当期も引き続き注力

● 店舗の状況

	2014/2末		2014/8末
導入店舗	62店舗	➡	92店舗
専門店	2店舗	➡	7店舗



● 売上高の状況

2015/2期2Q累計 トレーディングカード売上高

新品 前年同期比 **139.2%**

中古 前年同期比 **167.7%**

さらに、今後の多店舗展開を目指す上での障壁となるオペレーションの煩雑さを解消する手段として、各店に「**トレカ自動読取査定機**」を導入。



成長力の**基盤** 小さなNo.1から(トレカ業界No.1へ) ~メディアコンプレックスの再構築

○トレカパーク専門店の出店拡大

トレカパーク日本橋店(2013年3月17日オープン)から、トレカ専門店の出店を開始



販売、買取とも好調に推移



トレカパーク日本橋2号店を2014年1月24日にオープン



当期は、**トレカ業界No.1**を目指して、**新規出店を加速**
(マーケットのメッカと目されるエリアへの**質重視の出店**)

- 2014年4月26日 トレカパーク 福岡天神店
- 6月28日 トレカパーク 三宮店
- 7月20日 トレカパーク AKIBAラジ館1店
- 7月20日 トレカパーク AKIBAラジ館7店
- 8月 2日 トレカパーク 池袋店



AKIBAラジ館1店



福岡天神店



三宮店



AKIBAラジ館7店



池袋店

成長力の**基盤** ～メディアコンプレックスの再構築

○既存店舗のテコ入れ、即効性のある収益拡大策を展開

100%子会社として(株)モ・ジールの設立し、新たに中古衣料、服飾雑貨等の売買を開始。



店舗内イメージ



TSUTAYAと併設。
商材の適正効率を考慮した売り場面積の再配分を実施し、新たに確保したスペースに新商材を導入することにより店舗全体の活性化。

既存資源の有効活用によるコスト圧縮と出店リードタイムの短縮！

成長力の基盤 ～ 商圈創出

独自商材の導入によるEC販売の拡大

前期に投入した当社オリジナルスマートフォン用ケースが伸張



オリジナルスマートフォン用ケース
黒猫シリーズ

オリジナルスマートフォン用ケース
ときめきレストラン☆☆☆シリーズ

オリジナルスマートフォン用ケース
艦隊シリーズ



新商品の
継続投入

併せてスマートフォンサイトを刷新



アクセス数
増加

その他...

店舗に導入する新規商材の
販売も計画

成長力の**基盤強化**とコスト改革

戦略目標達成のための業務アライアンスの継続検討 (主な狙い)

- **メディアコンプレックス再構築…新商材の育成**
 - ・ 新規商材の育成における注力商材の補完
 - ・ 商品管理の根幹をなすPOS及び商品マスタの開発・メンテナンス等のシステム補完
- **商圈創出…リアルとECの拡大～融合**
 - ・ 買取に強いリアル店舗と販売が拡大しているEC双方の拡張
 - ・ リアル店舗とECの融合オペレーションの構築(積極買取～販路確保)
- **コスト改革…組織・固定費の構造改革**
 - ・ 上記具体化に伴うシステム・物流領域における開発メンテナンス費用の低減
 - ・ 組織・要員の補完による人件費低減

成長力の**基盤強化**と**コスト改革** ～カード事業の進捗

○新ポイントカード・システムの導入（4月22日）

プリペイドカード事業と連動させることで、今までにない当社独自のポイントシステム、サービス提供へ！
ポイントを「貯める」「使う」機能に加えて、「利便性」と「安全性」というサービスも提供

Visaプリペイドカード付、Visaプリペイド機能なしの2種類を提供



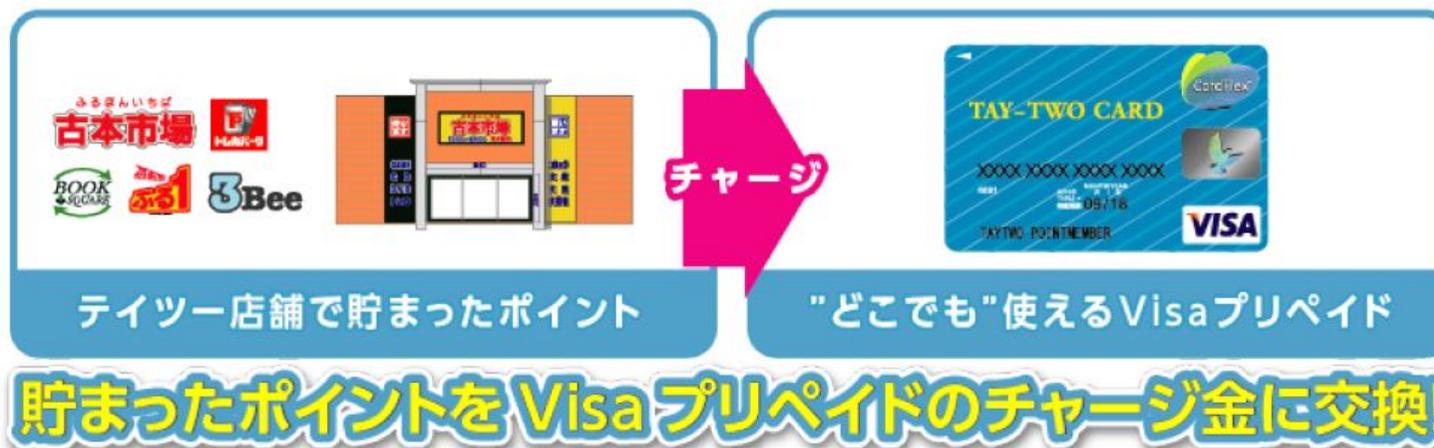
Visaプリペイドカード付



Visaプリペイド機能なし

○買取代金のプリペイドカードへの直接チャージサービス開始（8月11日）

○ポイントエクステンジサービス開始（10月1日）



2015年2月期 業績予想(通期)

通期の業績予想を修正いたします。

■連結業績予想

(単位:百万円)	2014年2月期 実績	2015年2月期 前回発表予想	2015年2月期 予想
売上高	31,393	32,415	30,800
営業利益	250	300	210
経常利益	232	285	210
当期純利益	△193	100	50
1株当たり当期 純利益	△3.80円	1.98円	0.99円

- 利益率が高く、価格コントロール可能な中古商材の拡大
- 市場が安定しているトレカへの継続投資・出店
- スクラップ&ビルドと新商材専門店や新エリアへの進出
- 独自商材の導入によるEC販売の拡大

■個別業績予想

(単位:百万円)	2014年2月期 実績	2015年2月期 前回発表予想	2015年2月期 予想
売上高	31,390	32,250	30,780
経常利益	307	355	300
当期純利益	△131	165	140

下半期からは

- ローコストオペレーション化推進
- トレカ収益性向上の為の商品管理体制再構築
- 新型店舗の展開開始
- 新商材の育成…業務アライアンス具体化

2015年2月期 配当予想

■中間実績と、期末・通期の配当予想について

当社は配当に関して、配当性向25%以上を目処として業績に応じた配当を安定的に実施することを基本方針としております。

(単位:円)	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
配当金	—	0.50	—	0.50	1.00
前期実績 (2014年2月期)	—	0.80	—	0.80	1.60

(注)当社は、平成25年4月15日開催の取締役会において、株式の分割及び単元株制度の採用について決議し、平成25年9月1日を効力発生日として、普通株式1株を100株へ分割し、単元株式数を100株といたしました。

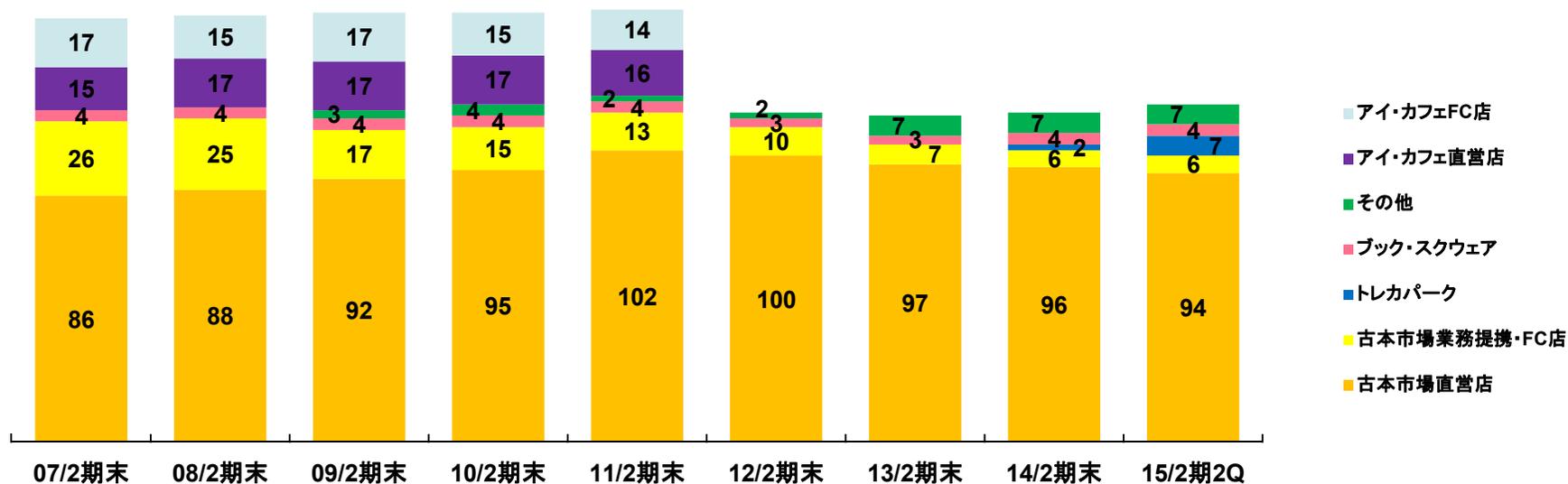
■配当性向の実績と計画

	第21期(実績)	第22期(実績)	第23期(実績)	第24期(実績)	第25期(予想)
	2010/3-2011/2	2011/3-2012/2	2012/3-2013/2	2013/3-2014/2	2014/3-2015/2
当期純利益	387百万円	△19百万円	244百万円	△193百万円	50百万円
配当金	134百万円	113百万円	113百万円	80百万円	50百万円
配当性向	34.7%	—	46.4%	—	100.0%

(注)22期は個別当期純利益及び個別配当性向

参考資料

〔ご参考〕2015年2月期 第2四半期 店舗の状況



	2014/2期	2015/2期 2Q			増減数
	期末	出店	退店	期末	
古本市場直営店	96(1)	—	2	94(1)	△2
古本市場業務提携・FC店	6	—	—	6	—
トレカパーク	2	5	—	7	5
ブック・スクウェア	4(1)	—	—	4(1)	—
3Bee	3(3)	—	—	3(3)	—
TSUTAYA(単独店)	2	—	—	2	—
Family Mart	2	—	—	2	—
合計	115(5)	5	2	118(5)	3

※カッコ内はTSUTAYA併設店となります。

会社概要

社名	株式会社テイツー（英訳名 TAY TWO CO.,LTD.）
設立日	1990年4月16日
上場日	1999年9月14日：JASDAQ
本社	岡山県岡山市北区今村650番111
東京本部	東京都品川区西五反田7-1-1住友五反田ビル5F、6F
代表者	代表取締役社長 寺田 勝宏
事業内容	1.古本、家庭用ゲームソフト・ハード、トレーディングカード、CD、DVD等の新品及びリサイクル品の販売・買取及びビデオレンタル業務、コンビニエンスストア「Family Mart」の運営 2.インターネットサイト「フルイチオンライン」の運営
従業員数	正社員 333人、パート・アルバイト 1,271人 計1,604人（2014年8月末現在）
資本金	1,165百万円（2014年8月末現在）
発行済株式数	52,640,000株：1単元100株（2014年8月末現在）
株主数	6,616名（2014年8月末現在）

満足を創る

本資料は2015年2月期第2四半期の業績及び今後の経営ビジョンに関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。

また、本資料は2014年10月15日現在のデータに基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し、又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

IR窓口：社長室

TEL03-5719-4775 FAX03-5719-4583

E-mail: ir@tay2.co.jp

URL: <http://www.tay2.co.jp>